



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

授乳期における補整下着の利用実態と評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳴海,多恵子, 平井,千尋, 川端,博子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/134670

授乳期における補整下着の利用実態と評価

鳴海 多恵子*・平井 千尋**・川端 博子***

生活科学講座

(2013年9月13日受理)

1 はじめに

妊娠期・授乳期の女性のバストは、単にサイズアップするだけでなく、授乳行動の前後によっても変化するため、その変化に対応できるブラジャーが必要である。一般のブラジャーは、バストを美しく補整し、活動に対する振動から乳房を支えるためのもので、装飾性があり、ワイヤー入りのものも多い。しかし、バストの形状が変化しないことが前提に作られているため、妊娠中に着用すると乳房の生理的变化を妨げる恐れがある。さらに妊娠期や授乳期のバストは乳腺が活発に活動しているため、ブラジャーは敏感な状態に対応するように、しめつけず、優しく支えるものであることが大切である。さらに授乳をする際には簡単に、そして手早く乳房を出し入れできることも重要である。授乳ブラジャーはこのような時期の専用の下着として開発されたものである。

授乳ブラジャーの形状はハーフトップ型とブラジャー型に大別される。さらに、授乳する際の胸の開け方により、クロスオープンタイプ、フロントオープンタイプ、ストラップオープンタイプ、ウインドウオープンタイプの4種がある(図1)。市販状況としては多様な商品が用意され、利用されているが、これまで被服学領域での研究は少なかった。薩本ら(2006)は実験的に形態適合性やサポート性などについて確認し、授乳期のブラジャー設計の基礎資料を得ているが、着用実態については、早坂ら(1993)が看護学の面から調査を行い、妊娠期・授乳期のブラジャーの選択においては体型の変化が予測し難いため、適当な選

択を余儀なくされていることを明らかにしている。利用期間および利用者が限定されていることなどからこれまでほとんど注目されていなかったが、妊娠期・授乳期特有の体型変化や機能性、耐久性、販売状況などに関する消費科学的な問題が潜在しているものと考えられる。

われわれは、授乳ブラジャーに特有な要求性能を整理し、衣服内気候と温熱的快適感(川端ら, 2012)、授乳行為による布地への負荷、洗浄性および耐久性など(川端ら, 2013; 平井ら, 2011)の観点から研究に取り組んでいる。

本研究では、妊娠期・授乳期の代表的な補整下着である授乳ブラジャーの利用実態と意識を調査し、問題点を明らかにすることを目的とした。

2 方法

2.1 調査対象・調査時期

都下の公立保育園4園に在園する保護者および保育士を中心とした育児経験者592名に調査用紙を配布した。有効回答数は296名であった。調査時期は2009年11月である。

2.2 調査方法・調査内容

配票留め置きおよび郵送によりアンケート調査を行った。調査項目は、基本項目として年齢、子ども数、母乳での授乳状況など。利用状況については、授乳ブラジャーの利用経験の有無、授乳ブラジャーの形状や授乳機能のタイプ、保有数、母乳パッドの利用の

* 東京学芸大学生活科学講座

** 東京学芸大学大学院修士課程(平成23年度修了生)

*** 埼玉大学教育学部家政教育講座

有無、洗濯方法など。購入に関しては、通常ブラジャーおよび授乳ブラジャーの購入価格帯と購入方法、情報収集の方法、選択基準など。授乳ブラジャーに対する評価については、おしゃれ性、整容性、授乳に対する機能性、着用感、サイズ適合性、耐久性、衛生面など、21項目について調査した。

3. 結果及び考察

3. 1 調査対象者の基本項目

調査対象者の年齢は21-30歳が11%，31-35歳が31%，36-40歳が34%，41歳以上が24%であった。授乳状況は、94%が母乳による授乳を経験していたが、調査時に母乳による授乳をしている人は17%であった。

授乳ブラジャーに対する課題意識は、使用経験の長さによって異なると考えられる。従って分析対象は、授乳ブラジャー未使用及び子ども数未記入および授乳経験をしていない者を除外した256名としたところ、子ども数は1人89名、2人117名、3人以上は50名であった。なお、子どもの人数によって、それぞれ「1人群」「2人群」および3人以上を「3人群」と呼ぶこととする。

3. 2 授乳ブラジャーの利用状況

授乳ブラジャーの利用経験は95%があり、子ども数の多少による差はみられなかった。授乳ブラジャーの付け初めは、出産直後からが最も多いが(37%)、妊娠中から付けている人が半数を超えていた(57%)。妊娠中期からバストが大きくなることや、商品パッケージに妊娠5ヶ月から付け始めることが記載されていることが影響していると考えられる。今回の回答では妊娠期では8ヶ月からの開始が最も多かった。なお、産院の入院リストに授乳ブラジャーを掲載している傾向があることも授乳ブラジャーの利用率を高めている要因と考えられる。

利用している(した)授乳ブラジャーの形状および

形状	ハーフトップ型		ブラジャー型	
				
授乳機能タイプ	クロス オープン	フロント オープン	ストラップ オープン	ウインドウオープン
				

図1 授乳ブラジャーの形状と授乳機能タイプ

授乳機能タイプは、図示(図1)し、回答をもとめた。

形状については、ハーフトップ型利用者が全体では69%と多かったが、子どもの数が増えると、すなわち育児経験が増えるとブラジャー型利用率が増加した(図2)。授乳中のバストの変化への体験的知識や授乳行動の慣れ、および、ブラジャー型のはハーフトップ型に比べてレースなどの装飾性が高いものが多く、授乳期間中においても下着におしゃれ性を求める傾向が現れているものと推測する。

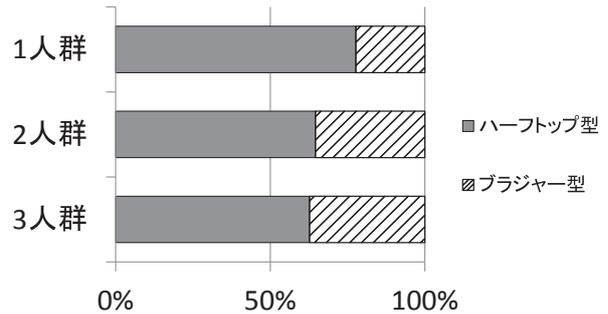


図2 育児経験と授乳ブラジャーの形状

授乳機能タイプは、ハーフトップ型利用者はクロスオープンタイプとフロントオープンタイプを選択し、ブラジャー型利用者はストラップオープンタイプの選択が多くみられた。

ハーフトップ型はメリヤス素材を使っているものが多く、ワイヤーなどもないために、乳房の大きさの変化には対応しやすい。しかし、アンダーバストや肩ひもの長さの調節ができないものが多く、乳房を支える効果は低い。職業を持つ女性にとっては就業中の活動において、バストを支持するブラジャー本来の機能も求めていることが、育児経験の多い回答者群にブラジャー型の利用率が増加する要因の一つとして推測できる。

保有枚数は1-2枚が6%、3-4枚が60%、5-6枚が28%、7-8枚が10%、9枚以上は1%であった。1日の中で着替える回数は1回が49%で最も多く、2回が12%であり、濡れを感じたら随時変えるという回答もあったが、「取り替えない」という回答も36%あった。授乳パッドを使用している(78%)ことにより、着替えるほどの授乳ブラジャーの濡れを感じることは少ないものといえる。

洗濯方法は、95%が洗濯機を使い、洗濯ネットに入れて(73%)、弱アルカリ性の合成洗剤(85%)を用いていた。これらの状況から他の衣料品と一緒に洗濯していることが考えられる。また、保有枚数と1日の中での着替え回数から、1枚の授乳ブラジャーの洗濯

頻度は高いと推測される。授乳ブラジャーの洗濯による性能の変化については、実験的に、特に脇部分の収縮が大きく、そのことが洗濯後の着用評価において、肌触りおよび着用感の低下に影響を及ぼしていることが確認されている(平井ら, 2011)。また、繰り返し着用と洗濯を行った実験により、収縮の発生とともに縫い目のほつれなど縫製の不備が発生する商品があることを川端ら(2013)は報告している。今回の調査からも一般のブラジャーよりも激しい洗濯条件で行われていることが確認され、授乳ブラジャーに授乳期間中を満たす程度の洗濯耐久性のある素材と縫製の改善が必要であるといえる。

3. 3 購入状況

図3に一般のブラジャーと授乳ブラジャーの購入価格帯の回答出現率を示した。授乳ブラジャーの方が低い価格で購入している傾向がみえる。

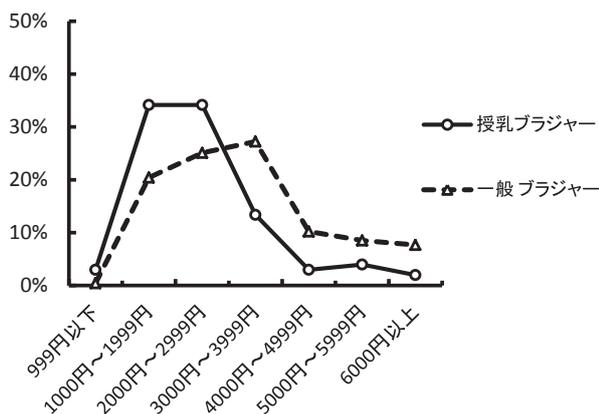


図3 一般のブラジャーと授乳ブラジャーの購入価格帯

授乳ブラジャーの商品価格としては680円から5,775円の範囲(川端ら, 2013)であるが、1,000円~2,999円の購入が多いことがわかった。また、育児経験が多い3人群で低価格帯がやや増加する傾向も見られた。

授乳ブラジャーに関する情報源は、図4に示す通りマタニティ雑誌が多く、次いで通信販売のカタログ、店頭・店員であり、早坂ら(1993)の結果と同様であった。一方で、購入場所は「店頭のみ」は58%、「通信販売(カタログ、インターネット)」は17%、「両方」が25%であった。カタログや雑誌で情報を確認した上で、店頭で直に品物を確認、店員に説明を聞き、購入しているといえる。しかし、店頭で購入している回答者のうち、試着をしているのは21%、さらに専門のアドバイザーや店員によるフィッティングをしているものは15%にすぎなかった。通信販売を

利用している人についても、製品がフィットしなかった経験があると回答したものは52%あった。また、下着は衛生上、返品・交換が不可能な場合が多いが、返品または交換した経験のある人は11%に過ぎなかった。市販授乳ブラジャーのサイズについては、M, L, LLに対応するバストサイズがメーカーにより異なったり、サイズ表示がトップバストのみでアンダーバストサイズの記載がほとんどされていない、また、商品間で、できあがりサイズがアンダー部位で15cmを超える個体差がある事例が確認されるなど、サイズ表示の信頼性に問題があることが指摘されている(川端ら, 2013)。消費者は自分にあった製品を選択するためには試着をすることや授乳のしやすさの点検を行うなどの姿勢が必要である。また、試着のしやすい販売環境の整備も求められる。

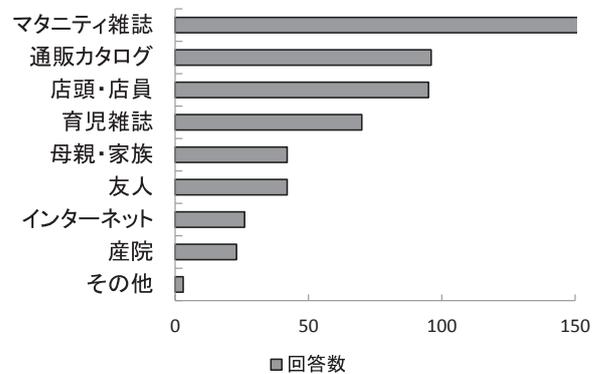


図4 授乳ブラジャーに関する情報入手先(複数回答)

購入に当たって重要視することについて、図5に示す11項目から3項目を選択する方法で回答を求めたところ、授乳ブラジャーの形状に関わらず「授乳のしやすさ」の回答率が高く、次いで「素材」があげられた。

「授乳のしやすさ」については、ハーフトップ型のクロスオープンタイプが片手で乳房カップ部分を引き伸ばして乳房を出すことができ、もっとも授乳しやすいと言われている。一方、ブラジャー型のストラップオープンタイプやウインドオープンタイプは乳房カップの上部をひもについているボタンなどから外して授乳するため、ブラジャーとしての着用状態を崩すことはないが、乳児の顔の上にカップ部分が被さりがちになるという問題がある。本来、授乳のしやすさの面からはハーフトップ型が適しているといえるが、肩ひもが太くて衣服の外側に響くなどの問題がある。デザイン的な好みやバストの支持機能を考えてブラジャー型を選択している場合には、むしろ授乳機能を重要視して選択しているものと思われる。素材については、利

用している授乳ブラジャーの素材が「綿を中心とした天然素材である」との回答が70%であり、「ポリエステルなど化学繊維が中心」に対する回答(13%)を大きく上回った。一般的なブラジャーがナイロンやポリウレタンなど化学繊維を中心としていることと異なり、生理的な性能の高い素材が求められていることがわかる。なお、育児経験による重要視項目の順位には差は認められなかった。

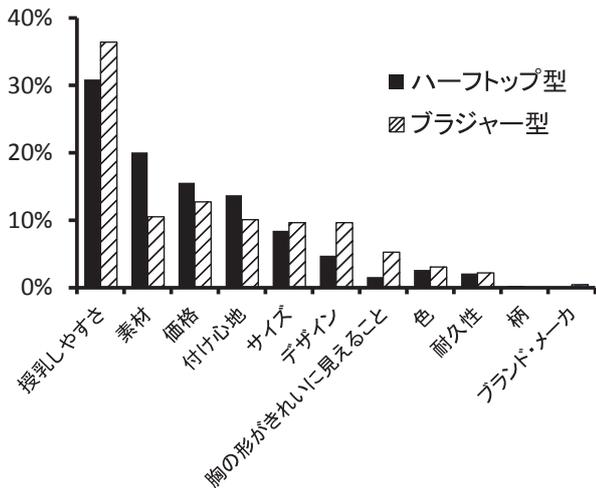


図5 購入時に重要視すること

図6は購入時に重要視することと購入価格との関係について、顕著な傾向が見られた「価格」と「胸の形がきれいにみえること」の2例を示した。各重視項目を選択した群と選択しなかった群との価格帯を比較したところ、「価格」を重視する群は安いものを購入する傾向がみられた。また、「胸の形がきれいにみえること」を重視する群は高価格帯を購入していた。この傾向は「デザイン」、「耐久性」を重視する群も同様の傾向があり、高価格のものはそれらに優れているものであると消費者が評価していることがうかがえる。

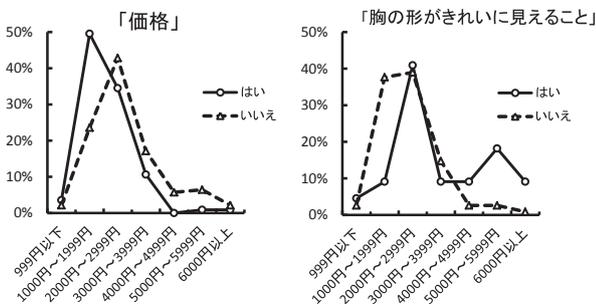


図6 購入時に重要視することと購入価格の関係

3. 4 授乳ブラジャーに対する評価

授乳ブラジャーに関する評価は、おしゃれ性、整容

性、授乳に対する機能性、着用感、サイズ適合性、耐久性や衛生面などの21項目について「当てはまらない」、「あまり当てはまらない」、「やや当てはまる」、「当てはまる」の4段階で回答を求めた。各評価に1~4点を当てはめ、利用しているブラジャー型ごとの平均値を図7に示した。

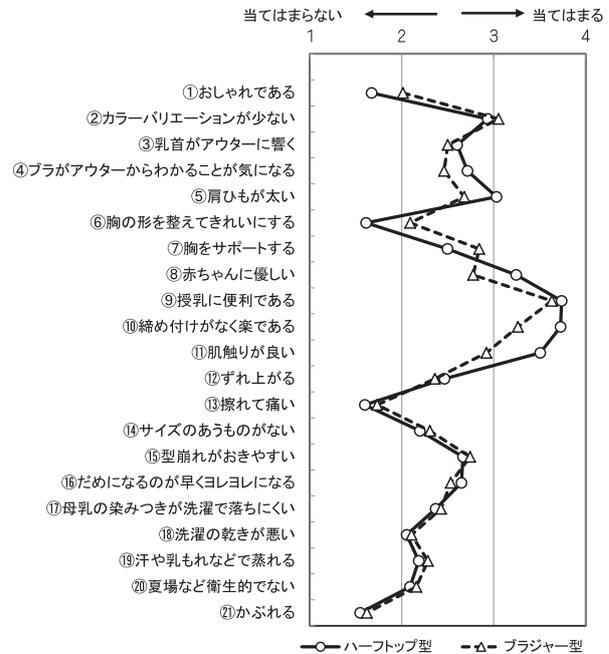


図7 授乳ブラジャーに対する評価

全体的に、おしゃれ性(①, ②, ③, ④, ⑤)や整容性(⑥)については評価が低く、授乳機能(⑧, ⑨)に対しては高い評価が得られている。なお、「⑦胸をサポートする」については、乳房の固定あるいは支持することと「保護する」意味の両面の評価が混在する可能性が推測された。着用感は、肌触り(⑪, ⑬)については評価が高いが、フィット性(⑭)はあまり高い評価は得られていない。さらに、「⑮型崩れ」や「⑯だめになるのが早くヨレヨレになる」に対しては、やや当てはまると評価され、洗濯や継続着用による影響がうかがえる。「⑫ずれ上がる」ことについてもアンダーバスト部分の型崩れ、および脇部分の収縮により体型へのフィット性が低下することによるものと推測される。授乳ブラジャーは授乳機能と変形するバストに対応させることを重視して設計している。そのため、一般のブラジャーにはない構造および素材の特徴を持つことになるが、利用者は一般のブラジャーと同様の要素も求めているといえる。授乳ブラジャーの要素が多く含まれるハーフトップ型が外観面(④, ⑤)、整容性(⑥)の面でブラジャー型に比べて評価が低いことにも現れている。装飾性の高い一般のブラジャー

を使用していた女性が、妊娠・育児期間は授乳機能性を最優先したおしゃれ性の不足した下着を利用せざるをえない現状は改善の余地があろう。近年、カラーバリエーションの増加や装飾性が加わるなど改善傾向は見られているが、耐久性や伸縮性に優れ、補整下着としての機能性もある素材の活用なども考慮する必要があると考える。なお、購入価格と評価について、1,999円以下の授乳ブラジャー利用群と4,000円以上の利用者群とを比較したが、差は認められなかった。また、育児経験による差も見られなかった。

4. まとめ

本研究は、授乳ブラジャーの利用実態と意識を調査し、妊娠期および授乳期の女性が快適な生活を送るための補整下着に関する基礎資料を得ることを目的とした。

調査は、保育園の保護者を中心とした育児経験者(592名、有効回答数296名)を対象として行った。調査時期は2009年11月である。

結果は以下のとおりである。

1. 授乳ブラジャーは90%以上の育児経験のある女性に利用されていた。
2. 利用開始時期は、「妊娠中から」が57%、「出産直後から」が37%であった。
3. 形状はハーフトップ型のブラジャーの利用が多かった。
4. 授乳ブラジャーの購入価格は1,000円台から2,000円台が多いが、育児経験が多くなるにつれて1,000円未満が増加する傾向がみられた。
5. 授乳ブラジャーに関する情報は「マタニティ雑誌」から得ている人が多かった。
6. 「店頭」で購入することが多いが、試着をする人

は20%程度であった。

7. 授乳ブラジャー選択において重要視する点は「授乳機能」であり、次いで「素材」「価格」であった。低価格でありながら授乳しやすく、付け心地のよい素材であることが求められていることがわかった。
8. 授乳ブラジャーの色やデザイン、バストアップなどの形態適合性に関する評価は低かったが、授乳のしやすさや、肌触りは評価が高かった。耐久性については、型崩れがしやすいことが指摘された。

本研究は平成23-25年度科学研究費補助金(基盤研究C・課題番号23500902)により行った。

文献

- 川端博子, 工藤彩, 生野晴美(2012), 授乳期における補整下着の衣服内気候と着用感に関する研究, 埼玉大学紀要教育学部, 61, p.215-222
- 川端博子, 山田祥子, 鳴海多恵子(2013), 授乳用ブラジャーの販売傾向・着用評価・耐久性に関する研究, 日本家政学会誌, 64(5), p.243-251
- 薩本弥生, 望月真里, (2006), 着心地の良い授乳期のブラジャー設計に関する基礎研究, 繊維製品消費科学会誌, 47(12), p.756-763
- 早坂祥子, 大槻静子, 高橋清子, 高林俊文(1993), 妊産婦用下着の着用状況に関する研究—助産婦学生継続事例へのアンケートから—, 東北大学医療技術短期大学部紀要2(2), p.137-142
- 平井千尋, 川端博子, 鳴海多恵子(2011), 授乳ブラジャーの洗濯に対する性能評価, 日本家政学会第63回大会研究発表要旨集, p.146

授乳期における補整下着の利用実態と評価

Survey of the Actual Situation and Evaluation Regarding the Use of Nursing Bras during Lactation

鳴海 多恵子*・平井 千尋**・川端 博子***

Taeko NARUMI, Chihiro HIRAI, and Hiroko KAWABATA

生活科学講座

Abstract

This study aimed to obtain basic data on foundation garments that aid women to feel comfortable during the pregnancy and lactation period by researching into the actual situation and evaluation regarding the use of nursing bras.

The research was carried out by targeting nursing-experienced people, mainly guardians at nurseries (592 people, valid responses received from 296 people). The survey period was November 2009. The results are as follows;

1. Nursing bras were used by more than 90% of the nursing-experienced women.
2. 57% started to use nursing bras during pregnancy and 37% did so after birth immediately
3. As for the shape of the nursing bras, many of them used half top bras.
4. The price range of the main nursing bras purchased was between JPY1,000 and JPY2,999. However, the tendency for nursing bras costing less than JPY1,000 to be used was seen as the women came to have more nursing experience.
5. Many women obtained information about nursing bras from maternity magazines.
6. Most women purchased nursing bras at shops, but more than 70% of them purchased the bras without trying them on first.
7. The point considered most important by women when choosing nursing bras was the “nursing function.” The second most important point was “ease of breast feeding,” followed by “material” and “price.”
8. Valuations of the nursing bras for color, design and fitness of shape for breast enhancement were low. However, ease of breast feeding and texture received high evaluations. As for durability, it was pointed out that nursing bras have low dimensional stability due to continual wearing and washing.

Key words: nursing bras, use actual situation, evaluation, bras shape, purchase price, criteria for selection

Department of Home Economics, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

* Tokyo Gakugei University

** Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University

*** Saitama University

要旨: 本研究は、授乳ブラジャーの利用実態と意識を調査し、妊娠期および授乳期の女性が快適な生活を送るための補正下着に関する基礎資料を得ることを目的とした。

調査は、保育園の保護者を中心とした育児経験者（592名、有効回答数296名）を対象として行った。調査時期は2009年11月である。

結果は以下のとおりである。

1. 授乳ブラジャーは90%以上の育児経験のある女性に利用されていた。
2. 利用開始時期は、「妊娠中から」が57%、「出産直後から」が37%であった。
3. 形状はハーフトップ型のブラジャーの利用が多かった。
4. 授乳ブラジャーの購入価格は1,000円台から2,000円台が多いが、育児経験が多くなるにつれて1,000円未満が多くなる傾向がみられた。
5. 授乳ブラに関する情報は「マタニティ雑誌」から得ている人が多かった。
6. 「店頭」で購入することが多いが、購入の際に試着しない人が70%を超えていた。
7. 授乳ブラ選択において重要視する点は「授乳機能」であり、次いで「素材」「価格」であった。
8. 授乳ブラの色やデザイン、バストの形態適合性に関する評価は低かったが、授乳のしやすさや、肌触りは評価が高かった。耐久性については、継続着用や洗濯によって型崩れがしやすいことが指摘された。

キーワード: 授乳用ブラジャー, 利用実態, 評価, ブラジャー形状, 購入価格, 選択基準